

発足したばかりの当研究所（坂上桂子所長）のプロジェクトとして、早稲田大学からの社会的国際的文化発信の可能性を検討するにあたり、比較的实现性が高いと思われるのは埼玉県本庄キャンパスの再活用計画である。本庄には、数十万坪に及ぶ広大な校地が上越新幹線本庄早稲田駅直近の場所に存在しているが、2016年現在一部を除いてほとんど使用されていない本庄高等学院旧校舎は、理工学部穂積信夫研究室（当研究所の古谷教授所属）が設計を担当し1986年に第27回BCS賞（日本建築業連合会）を受賞した優れた建築で、ある程度修復すれば現状でも使用可能と思われる。

本庄キャンパスでの早稲田大学文化3機関（演劇博物館、大学史資料センター、會津博物館）の展示計画と旧校舎活用案については、2014年1月に文化推進部と3機関が共同で実地調査を行い、會津博物館は以下の提案を行ったがその後具体的な検討はなされていないので、都市と美術研究所で引き継いで新たな提案ができればその意義は大きい。

今回の報告ではひとまず2014年の會津による構想案（一部修正）を紹介し、本庄校地の見取り図を示すにとどめるが、次回研究会で建築学科の古谷先生、藤井先生に旧校舎活用の可能性についてより詳細な報告を頂ければ幸いである。（新校舎移転前2011年度の見取り図なので旧校舎が92号館、新校舎が95号館で示されている。）

本庄キャンパスでの展示計画と旧校舎活用構想案（會津八一記念博物館 2014.1.30）

1. 本庄キャンパス93号館での展示計画案

（1）三機関の巡回展および本庄考古資料館などの収蔵資料の展示

本庄キャンパスにおいて展覧会を企画し開催すると仮定した場合、三機関が早稲田キャンパスで開催した企画展を、会期終了後、巡回展として期間をずらして開催する方法が、最も現実的ではないだろうか。巡回展であれば、本庄市の地元の方々だけでなく、早稲田キャンパスで見逃した方々や、より深く興味を持った方が再度、観覧することもできる。ただし、絵画、書作品、繊細な陶磁器などの展示については、作品保護や温湿度環境の観点から、現状では困難であろう。

当面は會津博物館としては、考古学関係を早稲田キャンパスでの開催に加えて、本庄キャンパスにおいても展示することが妥当であろう。演劇博物館、大学史資料センターにおいても、一定の条件が許せば、相応の展示が可能ではないだろうか。試みに、演劇博物館、大学史資料センターでもまず、年1回の企画展の巡回展を実施し、三機関で計3回の展覧会を開催していくことが可能ではないかと考えられる。

巡回展以外の展覧会としては、本庄考古資料館、本庄キャンパスに収蔵されているその他の資料を用いた展示が、資料移動の負担などが相対的に少なく開催が可能かもしれない。本庄キャンパスには、オセアニア民族美術品（文化推進部所管）、早稲田大学校地内出土の考古資料（教務部所管）、森繁久彌資料（演劇博物館所管）、探検部収集民族資料（教務部所管）、所沢・本庄民俗資料（教務部所管）などが収蔵されている。

（2）本庄地方拠点都市地域基本計画との関連について

元来、この本庄リサーチパークは、1993年8月、埼玉県知事より、本庄市、美里町、児玉町、神川町、神泉村、上里町、岡部町の1市5町1村が「本庄地方拠点都市地域」として指定を受け、開発が認められた地域とされている。埼玉県および1市5町1村が所蔵している文化資源とのコラボレーションによる施設利用もありうるのではないだろうか。

（3）展示のための暫定的な予算措置について【省略】

(4) 協同展示計画案：Waseda Art Festival in 本庄（仮称）の開催

さしあたって、以上の予算措置（3）を前提としたうえで、今年度、新たな予算が措置されれば、本庄キャンパスで、次のようなプランも考えられる。

早稲田アートフェスタ in 本庄《仮面の祭典》（仮称）

会場：93号館（早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター）

期間（例）：2014年10月14日～28日の早稲田文化芸術週間中に開催

展示内容：會津博物館で2013年6～8月開催の特集展示 AIZU MASK FESTIVAL のオセアニア民族美術品（上述）のうち上記会場で展示可能なものを選んで展示する。【2014年度に実現、15年度は土器作り実演】

2. 本庄高等学院旧校舎活用構想案（Art Village または Artist In Residence など）

公的に表彰され優れた建築である旧校舎を活用して文化芸術の発信を行うことは、Waseda Vision 150 との関連でも重要な意義があるので、現状で考えられる構想の素案を述べることにしたい。旧校舎の教室・事務室・図書室等はそれぞれメゾネットタイプの構造を持ち、それぞれの部屋が独立している。また各部屋の窓も大きく、採光の点からは南側の部屋は十分に光量を得ることができる。このような特性を示す旧校舎を芸術的な見地から活用することを考えた場合以下のような活用法が考えられる。

(1) 建築空間をそのまま利用した演劇およびパフォーマンスの上演

(2) インスタレーション等の現代美術の展示

(3) 旧校舎全体を Honjyo Art Village や Artist In Residence (AIR) の場として活用し、学内外、国内外のアーティスト、建築家、研究者等に参加を呼びかける。

(1)(2)の内容を包括した(3)、つまり作家（美術・建築・演劇・音楽等）を招聘し、その場に滞在しつつ制作を行わせるというありかたが、旧校舎の形態に最もよく合致しているといえよう。現在[2014]、愛知県立芸術大学、青森公立大学等の大学および各自治体（財団法人）によって AIR の試みがなされており、市町村レベルでの試みも多くなされている。

幸い、本庄高等学院には学生寮（ドミトリー）が完備されており、AIR に向けた校舎のリフォームや資金的な問題や高等学院・本庄市との協力・連携等の課題がのこされているものの、AIR の基礎となりうる制作・展示スペースと住居スペースに関する環境は整っている。

実際に旧校舎で AIR 構想を実現化するにあたり最低限必要な事項は以下のとおりとなる。

①各部屋の大幅な改修

②高等学院および本庄市との連携

③渡航・制作・滞在費の補助金システム

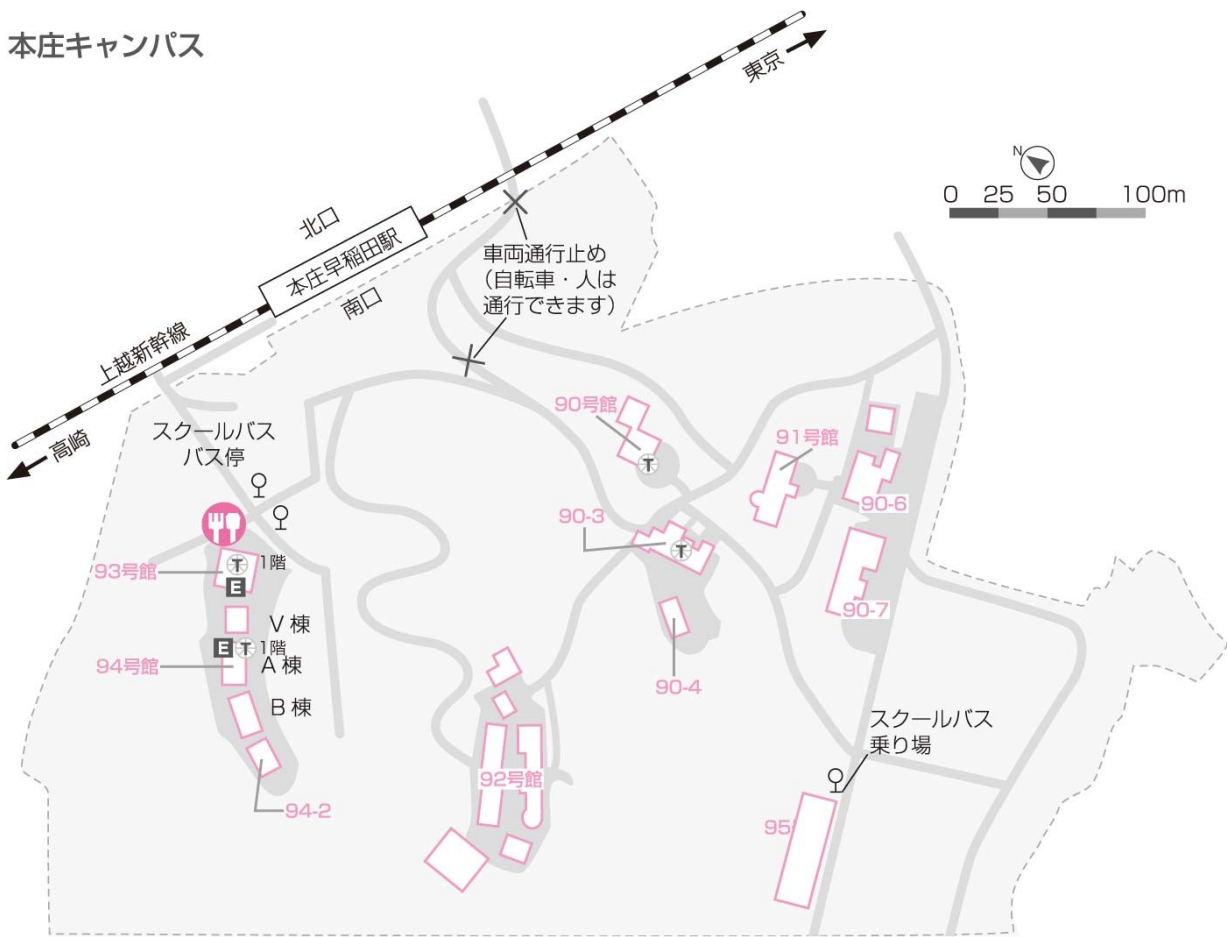
④人的なサポートシステム

⑤具体的な AIR 事業の期間・招聘作家の選抜・選定

以上のように、必要な条件が満たされれば、旧校舎を AIR の場として利用し、活用する可能性は高いといえよう。さしあたり、文化推進部、本庄キャンパスの関連個所、會津博物館、演劇博物館等が共同して、本庄高等学院旧校舎での AIR 検討委員会（仮称）を結成し、その実現可能性を探る、ということが現実的な一歩だと思われる。【検討委員会は実現せず】

以上

本庄キャンパス

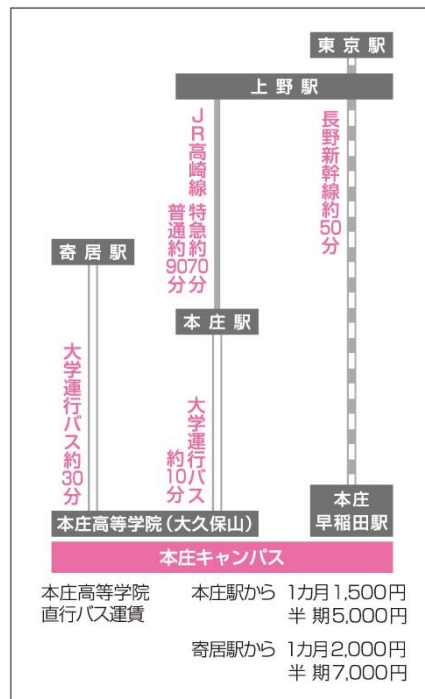


- 90 本庄ドミトリー
- 90-3 本庄共通教室
- 90-4 本庄倉庫
- 90-6 本庄研究棟 94-2 環境情報実験棟
- 91 図書館本庄保存書庫 95 本庄高等学院
- 92 本庄高等学院 (※)
- 93 早稲田リサーチパークコミュニケーションセンター
 本庄総合事務センター
 国際情報通信研究科
 国際情報通信研究センター
 環境・エネルギー研究科
 環境総合研究センター
 本庄プロジェクト推進室
 保健センター本庄分室
 財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構
 ITセンター本庄分室
 食堂
- 94 インキュベーション・オン・キャンパス本庄早稲田
 (IOC本庄早稲田)
 V:ベンチャーゾーン
 A: 国際情報通信研究科/研究室
 B: 環境・エネルギー研究科/研究室

※2012年度より、本庄高等学院は新校舎(95号館)へ移転します。
 詳細は以下の本庄高等学院ホームページをご確認ください。

【URL】

<http://www.waseda.jp/honjo/honjo/>



【上述の通り 92号館が旧校舎、95号館が新校舎、90号館がドミトリー/交通費は現在と異なる】